

つくば常民大学4月(第43回)

講師：山田実氏（元・国立研究開発法人農業生物資源研究所研究員）

題目：「記憶：学童集団疎開と東京大空襲」

日時：2025年4月17日（木）午後1時～3時半

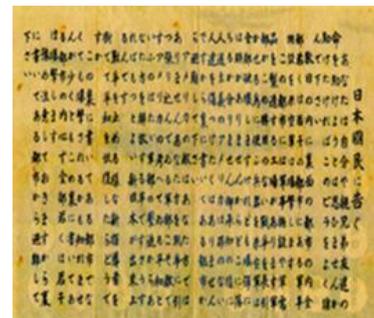
場所：つくば市二の宮交流センター

※ 参加自由・要資料代

日本は1931（昭6）年の満州事変以降、1945（昭20）年8月15日にポツダム宣言を受諾、9月2日に無条件降伏調印。この15年間に報告者は生まれ（昭和7年）、育った。今回は自身の少年期の体験、記憶をもとに戦争を語り継ぐ。

1. 学童集団疎開 1944年、サイパン諸島が米軍の手に落ち、「超空の要塞」B29爆撃機の空襲が避けられなくなり、政府は6月30日の閣議で大都市児童たちの避難促進、疎開要綱を決めた（「縁故疎開」と「学童集団疎開」）。

2. 東京大空襲 1944年11月1日サイパン島マリアナ基地から発進したB29機が初めて東京を高々度で偵察、同月24日初空襲、当初はおもに軍事施設・軍事工場を目標にしたが、1945年3月10日からは、一般国民を対象とした無差別爆撃となった。以後、京都と金沢を除き、同様な爆撃がほとんどの県庁所在地や中規模都市を対象として8月14日まで続いた。



左：集団疎開先で寮母さんと児童たち24人

右：1945年7月に米空軍機が撒いたビラ「日本国民に告ぐ」